

令和5年度 第3回 印西市社会教育委員会 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月19日（火）
10時00分から12時00分まで
- 2 開催場所 印西市役所 2階 23・24・25会議室
- 3 出席委員 菊地委員、河村委員、松崎委員、石川委員、押田委員、
馬場委員、松山委員、高橋委員、箱崎委員、浅倉委員、
片倉委員、小島委員、小林委員、山本委員、青井委員
今野委員、香取委員、佐藤委員
- 4 事務局の出席 印西市生涯学習課
飯島課長、飯塚係長、平山主査補、川手主任主事
- 5 内容 報告
(1) 令和5年度生涯学習関連事業報告について
(2) 印西市社会教育関係補助金交付要綱の一部改正について

議事
(1) 令和6年度生涯学習関連事業計画（案）について

6 会議要旨

報告（1） 令和5年度生涯学習関連事業報告について

事務局 事務局より報告（1）について説明

委員 印西市民アカデミーの卒論発表会に参加をさせていただいた。皆さんに素晴らしい発表をされていたと思う。私的な意見であるが、感想が井戸端会議的にまとめられていたが、最終的感想の場面でまとめた方が良いのではないかと。卒論にメリハリが無かったように思う。

委員 卒論発表会は、非常に素晴らしかった。広報等には掲載されていなかったように思う。学生の学習の成果が詰まった非常に実りがある発表会だったので、周知がされていなかったことは非常に勿体無い。会場を文化ホールに変更し、市民の方へ周知をすることで、入学希望者も増加するのではないかと。今回の発表会に伴う周知はどのように行なったのか。

事務局 市民アカデミー1年生と市民アカデミーの同窓会員のみである。会場については、今後、文化ホール等で実施することも検討していきたい。

委員 発表内容がすごく良かったことから、より多くの市民に聴講していただく機

会を作るべきだと思う。

その中で、評価がCであることは非常に残念である。

社会教育指導員のリード力、コーディネート力は非常に素晴らしいことから、行政としても、さらに力を入れて実施していくべきだ。

また、社会教育関係団体の支援について、目標が入っていないが、目標を設定することが難しいのか。具体的な支援の内容、その結果を入れることは出来ないのか。

事務局

市民アカデミーの事業評価について、上位計画において目標値が設定されており、それに照らし合わせるとC評価と言わざるを得ないが、事業内容的には、C評価より上であると考えている。また、周知方法や開催場所については、社会教育指導員と協議の上、検討していきたい。

社会教育関係団体への支援については、団体からの後援申請のタイミングや数が読めないこと、補助金交付団体等も複数あることから、掲載しきれず、資料の内容となっている。後援申請件数は26件、昨年度は39件であった。後援申請事業の例としては、親子参加型のイベントや屋外での活動イベント等がある。

補助金の交付団体については、現在交付要項に従い、支援をしている。

資料への掲出方法については、今後改善していきたい。

委員

後援申請をし、承認を受けた際のメリットは何か。

事務局

市教育委員会の後援を受けていることをチラシ等に記載ができること、場所により公共施設の優先予約が出来ること等である。

委員

家庭教育学級について、保護者同士が繋がれる場所として、非常に重要であると考えている。受講者数の減少の要因は、共働き世帯が増えたことが要因であることから、そういった側面を踏まえてカリキュラムを検討していくべきではないか。時代に合わせた事業が必要である。

事務局

女性の社会参画、共働き世帯の増加により、平日の事業への参加者が減少していることは認識している。今後、SNS等での発信や休日での事業を家庭教育指導員と協議して進めてまいりたい。

委員

週末や親子での事業を開催すると良いと思う。平日の場合は、仕事を休んでも参加したくなるような事業を計画しないと参加者数の増加は見込めないと思う。

委員

市民アカデミーについて。卒業後に得た知識を生かす場所を作ってもらいたい。今回の卒論の内容で言えば、卒論を作成した学生による散策ツアーなどがあれば、非常に魅力だと思う。

また、前回学生にアンケートを取るとの話があったが、進捗はどうか。

事務局	市民アカデミーの事業方針として、学生に多く選択肢を与えることであると考えている。市民団体の方に直接ご講義をいただくことや、市民活動支援センターの方にお話しをお伺いして、卒業後の進路についての事例を提供している。学生が何かを始めたいと思った時の問い合わせ先や実施方法などがわかるように心がけている。 アンケートについては、今後早急に実施していく。 意見・質問等については以上
報告（２）	印西市社会教育関係補助金交付要綱の一部改正について
事務局	事務局より報告（１）について説明 質問等は無し
議事（１）	事務局より議事（１）について説明
委員	地域学校協働本部への移行に関して、地域学校協働活動推進員の委嘱の目処は立っているのか。また、選定するにあたっての学校や関係者に対しての説明、研修等はどのように考えているのか。
事務局	地域学校協働活動推進員の委嘱は、可能であれば令和７年度から行いたいと考えている。選定については、さわコミの全体会や学校へ直接お伺いするなどして、詳細な説明や地域の核となる方をご紹介いただき、生涯学習課にてその方へ交渉したいと考えている。また、研修については、県教育委員会による研修会が年間数回あることから、そういった研修をご覧いただきたいと考えている。
委員	資料には、令和７年度から移行することと記載があるが、断言されてしまうと学校現場としては非常に困る。移行に向けて準備を進めていくなどの表現としてほしい。また、資料にも、地域学校協働活動推進員の選定に苦慮すると記載があることや印西市には類似組織である学校評議員制度が無いことから、数年先を見据えて事業計画を立ててほしい。学務課、指導課を巻き込み、校長会、教頭会で説明をしながら、無理の無い範囲で進めてほしい。
委員	見切り発車をしてしまうと、地域が困ってしまう。綿密な計画と準備をお願いしたい。１年間でそれが出来るのか、学校、地域の心の準備が出来ない中では厳しいので、学校等の意見をもっと吸い上げながら検討していただきたい。
事務局	地域学校協働本部への移行は、モデル校を設定して実施するのか。 地域学校協働本部については、既存のさわコミの組織をベースとして、今まで地域の調整役を担っていたいただいていた教頭先生の事務を地域学校協働活

動推進員の方に担っていただきたいと考えている。各地区で実施しているさわコミの活動は、継続していただくと認識していた。

委員 地域学校協働本部はコミュニティスクールとどのように関わっていくのか。

事務局 コミュニティスクールは、簡単に言えば学校と地域との意見交換の場である地域学校協働本部は、意見交換の場に出た意見を実行していく実働部隊になっていただく方々である。他自治体の事例では、学校側が書道の講師を求め、地域学校協働活動推進員を通じて、文化協会の講師へ依頼し、学校で授業を行っている。また、慣例で無くせない学校のイベントなどを学校運営協議会の後ろ盾を得て無くすなどの事例がある。今後は、地域学校協働活動推進員に渉外的な事務を担っていただき、教頭先生は学校内の調整に専念いただきたいと考えている。

事務局 ご指摘の表現については、訂正させていただく。現状では、コミュニティスクールの先進事例の研究をしており、一部の社会教育委員にもご協力をいただいている。導入することでどのようなメリットがあるのかを精査したうえで、学校や地域関係者へ丁寧に説明をしていきたい。

委員 地域学校協働推進員が、教頭先生が担っていた事務を引き継ぐとのことだったが、その点について詳細な説明を求める。

事務局 現状、会議の招集や補助金の取りまとめ等を教頭先生が担っているが、今後は会議の調整や金銭の管理を地域学校協働活動推進員に担っていただくことで、教頭先生の負担を減らしていきたいと考えている。

委員 事務的なことも推進員が行うのか。

事務局 どの部分まで推進員に担っていただくかは検討中だが、生涯学習課と分担しながら、行っていく見込みである。

委員 地域に関する教頭先生の事務が軽減されて、推進員と生涯学習課で行うということか。

事務局 その通りである。

委員 推進員にはパソコン操作が必要になるということだが、出来るのか。それであれば人選はよく考えていただきたい。

委員 さわコミを地域学校協働本部へ移行するとのことだが、推進員は各学校へ配置するのか。

事務局 小中学校に配置するのか、中学校区ごとに配置するのかは、先生方と相談して決めていきたい。さわコミの組織は中学校区ごとに設置をされているので、

組織を生かすということであれば、中学校区ごとの配置になると思われる。しかし、組織が大きいことから、各学校1名配置してほしいという意見もあるかと思うので、そこは各学校と相談していきたい。

委員 学校の規模にもよると思う。

事務局 おっしゃる通り、規模や地域の状況に差があるので、先生方と協議のうえ、決めていきたい。

委員 教頭先生の役割の中で、地域との渉外の部分を推進員が担うとの認識で良いか。

事務局 国の指針において、地域ボランティアとの連絡調整は、学校以外が担うべきとの記載があることから、この部分を地域学校協働活動推進員になっていたきたいと考えている。

委員 具体的に推進員にどのような業務を行なっていただくかを明確にした方が良い。

事務局 本件については、内容が定まってきた段階で、改めてご提案させていただきたい。

委員 1年間かけて、しっかりと議論してほしい。

委員 さわコミの無い3中学校区についても、同時並行で議論をしていただきたい。

事務局 検討する中で、不明な点等、ご意見を頂戴したいと思う。

委員 船穂中学校区に、フナホームというボランティア団体を立ち上げた。まさに、地域学校協働本部の先進事例であるので、調査研究していただきたい。

委員 コミュニティスクールを導入すると、学校や地域がどのような姿になるのかということを委員がイメージ出来ないまま、提案されても困ってしまう。モデル校や県の具体例をもっと示していただきたい。また、学校側としても生涯学習課から突然学校に打診するのではなく、指導課や学務課と連携して、同じ内容を様々な部署から学校へ提案する形でないと、学校側も動けない。また、資料のアンケートは誰宛に通知したもののか。

事務局 教頭先生宛に出している。

委員 教頭先生は、学校の中でも一番忙しい存在である。業務が増えるということであれば、反対の意見が出るのは当たり前である。教員としては、これ以上仕事を増やしてほしくないはずである。コミュニティスクールの導入が働き

方改革にどのようにつながっていくのかをもっと示していただきたい。学校や地域の理解が無ければ、生涯学習課がいくら苦労しても導入できない。本来、社会教育委員は応援する立場であるはずなので、もっと事例を見せてほしい。

委員 インターネット等を使用した事業は検討しているのか。昨今、ネットの発展は目まぐるしい。例えば、家庭教育学級に関して、家庭の悩みを掲示板のようなものに集めて、利用者みんなで議論するなど、ネットを活用していただきたい。市のホームページを見ても内容が乏しい。もっとインターネットを活用した事業を展開していただきたい。

事務局 こども家庭庁においても、ネット上での相談窓口を開設している。また、Q&Aも多数掲載している。家庭教育学級についても、こども家庭庁を例に、ネットの活用を検討していきたい。

委員 是非、楽しいホームページを目指してほしい。今のホームページは、文字だらけで読みづらい。広報は、明るく見やすくなったが、ホームページもより充実させてほしい。

委員 学校へのアンケートを実施した目的とアンケートを実施して分かったことは何か。

事務局 目的は、さわコミから地域学校協働本部への移行及びコミュニティスクールの導入についてのご意見をいただきましたかったため、実施した。結果として、生涯学習課として、学校へのアナウンスや学校への理解が不足していることを今回の会議を含めて認識した。

委員 事業はやらなければいけないものなのか、やらなくても良いものなのか、より整理して学校側へ示してほしい。

委員 市民アカデミーについて、令和5年度の事業報告では、郷土愛を深めるとある講座を検討するとあるが、令和6年度は、歴史文化からまちづくりへメインカリキュラムを変更するとあるが、矛盾していないか。

事務局 本市の魅力を伝えるため、歴史文化、郷土愛の講座を無くすわけではない。卒業後の進路を示すうえで、まちづくりの講座を多く取り入れていきたいと考えている。

意見・質問等については以上

以上

使用した資料

- 資料1 報告（1）令和5年度生涯学習関連事業報告について
- 資料2 報告（2）印西市社会教育関連事業補助金交付要綱（平成20年告示第63号）の一部を改正する告示の制定について
- 資料3 議事（1）令和6年度生涯関連事業（案）について
- 資料4 議事（1）令和5年度第3回社会教育委員会議資料

令和5年度 第3回 印西市社会教育委員会議の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和6年6月3日

印西市社会教育委員

署名委員 押田 正雄
